



オーバーコールのレスポンスの謎 (その 2)

2018.4.20

6. Win At Duplicate Bridge Bid Difficult Hands Like An Expert by Fred Parker, 2009

日本語訳版の p.45 にはオーバーコールのレスポンスの章があり

「パートナー間で]オーバーコールのレスポンスはノンフォーシングと約束すべきである。そうすれば、オークションに積極的に参加することが出来る……

「1 の代でニューズートをビッドするためには良い 5 枚スーツと最低 8HCP 必要である。2 の代でニューズートをビッドするためには最低 8HCP と大変良い 5 枚スーツが必要である。新しいスーツをビッドするということは、パートナーの 3 枚サポートを否定している。これはフォーシングビッドではないのでオーバーコーラーはパスできる。」

となっています。

7. The Contested Auction by Roy Hughes, 2012

でも p.73 以降、これも詳しく論じています。

「昔からずっとオーバーコールへのアドバン스는ノンフォーシングと考えられてきた。……オーバーコールは弱いこともあり得るので、ノンフォーシング・アドバンズにすることは上がりすぎることを防ぐ利点があった。♠ Q82 ♥ KQ10973 ♦ 82 ♣ 94 を持っていて (1D) - 2C - (P) - ? となった時に 2H と言えるが、フォーシングにしていると 2H で終わることができない。……ノンフォーシングにしているとき (1S) - 2C - (P) - ? となった時に強いハンドは、自分のスーツを示すより先にまず強いよと 2S とキュービッドしなければならない。これは不器用な扱い方で、オポーネントがこれ以上競ってこなくとも、おもしろくないほど高いレベルになってしまうかも知れない。……1980 年代に Jeff Rubens が B ridge World 誌に発表した論文で、アドバンサーはたとえば (1D) - 2C - (P) - ? となった時に、ニューズートをトランスファーで示す=2D でハートを、2H でスペードを示す。オーバーコーラーはトランスファーをして、アドバンサーはこれをパスするかさらに続けるかは自由である」

このトランスファー・アドバンスあるいはルーベンス・アドバンスと呼ばれるコンベンションは日本では使っている人はあまり見かけたことがありませんが、なかなか有効なコンベンションに見えます。おもしろいと思った方は使ってみてはどうでしょうか？

もう少し詳しく説明すると、たとえば

(1C) - 1S - (P) - ?

と来た時、パートナーのオーバーコールは 1D と 1H を通り過ぎていきますからこのスーツに対してはトランスファーが成立し、ここで 2C という 2D へ、2D という 2H へのトランスファーになります。アドバンサー (オーバーコーラーのパートナー) はこれをパスしてもよいですし、強ければまた何かをビッドすることもできます。なお

(1C) - 1H - (P) - 1S

はオーバーコールが通り過ぎていないスートなのでナチュラルです。

8. Encyclopedia of Bridge 7th Edition, 2011

の p.254 に Overcall の Suit Takeout の項があり

(1C) - 1H - (P) - 1S

については、

「伝統的には 1S は最低でも良い 5 枚スート、非常に良いハートのサポートを持ってはいない。パートナーに非常に良いスペードサポートがあれば別だが、パスすることが期待されている。そこで 2D と言っていたならばもっと強いハンドを示す。」

と書いてあります。

これらテキスト以外にもいくつか例示がある本があり

9. Partnership Bidding At Bridge by Andrew Robson and Oliver Segal, 1993

の p.91 に

(1S) - 2C - (P) - 2H (Forcing)

は

♠ 73
♥ AJ964
♦ J73
♣ K42

で言うとしています。これはクラブにサポートがあると同時にハートのストッパーを示していて、3NT 狙いのようです。

同じ著者の

10. Bridge Lessons Overcall by Andrew Robson, 2013

では、Deal 21 で

(1D) - 1H - (P) - 1S

と言うのは①と②、1S でなくパスするのは③と④です。

①	②	③	④
♠ KJ985	♠ AQ532	♠ A9764	♠ QJ932
♥ 6	♥ 7	♥ 75	♥ Q3
♦ 875	♦ 954	♦ 62	♦ 752
♣ A1087	♣ A752	♣ QJ64	♣ 982

Deal 22 で上記シーケンスは、パートナーの 1H オーバーコールしなかったとき、例えば (1D) - P - (1H) - 1S と 1S オーバーコールするのと同じである、としています。(もちろん①②のハンドですが)

(次回に続く)